音楽科学習指導案

引き算の美学が生み出す音楽表現
～茶道のお点前と箏の「揺らぎ」で織りなす創作表現～

授業者 附属池田中学校 山部 智可

1.対象 附属池田中学校第2学年 A 組（37 名）

2.単元目標

・知識及び技能に関して

茶道における空間やお点前における作法と、その空間を際立たせる箏の様々な奏法による「音色」や「間」との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で箏を奏でることができるようにする。

・思考力，判断力，表現力等に関して

茶道における空間やお点前における作法を箏の「音色」や「間」の視点から多面的に捉え、その空間を際立たせるために、音の数、奏法（音色）、間の配置を根拠を持って構想し、表現を工夫することができるようにする。

・学びに向かう力，人間性等に関して

茶道の作法が本来持ち得ている意味や「引き算の美学」に関心をもち、無音（静寂）や箏の「音色」の響きを味わいながら、グループで協働して創作・改善に積極的に取り組もうとする態度を養う。

本単元で扱う学習指導要領の内容

［指導内容］ 第2学年 A 表現(3)創作 ア,イ(ア),ウ

［共通事項］（1） 音色

3. 指導に当たって

(1)思考スキル ※教科で重点を置く思考スキルと教科の解釈について

思考スキル	教科の解釈
多面的に捉える	多様な視点や観点から音楽を捉える
関連づける	学習事項と実体験のつながりを示す
広げてみる	物事についての意味やイメージを広げる

（2）教材観

本単元は、箏のあらゆる奏法によって生み出される多様な音色の表現を茶道のお点前における作法と結び付けて「音を奏でることの意味」を探究する創作活動である。茶道の精神である「わび・さび」を、「不完全の美」の探究と捉え、本単元の核となる「引き算の美学」と深く関係している。 今回は、歌舞伎の黒御簾音楽を参考にし、その場の情景や心情に合った音色について考えさせる。生徒には、一音の持つ本質的な美しさや空間の豊かさを際立たせる音色とは何かといった点に迫りたいと考えている。本校の3年間の箏の学習過程において、1年生では箏の右手における基本的な奏法を習得し、2年生ではさまざまな装飾音を奏でる奏法の習得を目指す。本単元は、箏本来が持ち得ている楽器特有の音色を探究すべく音の出し方を型にはめ込むのではなく、箏のあらゆるパーツから箏が持ち得ている音色を探す。そして、一音から奏でられる音色の響きに耳を傾け、箏に秘められた音に深く迫りたい。この取り組みが3年生で習得する「六段の調」初段に出てくる余韻の奏法と深く結びつくものと考えている。

(3) 生徒観

今回、この単元を実施するにあたり、日本の伝統文化に関する意識調査を行った。(添付資料参照)その結果、生徒達は、普段の生活においては、西洋の文化を主流とした音楽を耳にすることが多い中、日本の伝統文化についても非常に関心が高いことがわかった。日本の伝統文化に対するイメージにおいては、65%の生徒が好印象と答えており、興味を示している生徒は、80%に達した。また、伝統文化に触れたり知ったりした「きっかけ」として、最も多かったものが、学校の授業であることもわかった。このことから、学校教育において我が国における文化を教えることの重要性がより明確になったと考えられる。さらに、今後、日本の伝統文化を今の形、もしくは、時代に合わせた形で残していくべきと答えた生徒は、90%を超えており、我が国の文化に対して誇りに思っていることが伺える。

この結果をふまえ、今回は、日本の伝統音楽が大事にしてきた無音(静寂)や、間の中にこそある美しさに視点を向けさせたい。そして、茶道のお点前における作法とその空間から感じたイメージを箏の音色で表現し、その場の雰囲気をより際立たせる箏の音色について探究させたい。そして、音を重ねるだけではなく、音をそぎ落としていくからこそ見える新たな世界と出会い、箏の音色を取捨選択しながら試行錯誤を繰り返し、自分達が納得のいく音楽表現にたどり着くことを期待している。

(4) 指導観

第2学年の探究テーマは「アイデンティティーと音楽」である。今回は、この探究テーマに基づき、この単元における探究テーマを次のように設定した。「箏の音色と間から探る、日本人の精神性と文化的アイデンティティー」この探究テーマを基に、日本の伝統文化が大事にしてきた無音(静寂)や間から生み出される引き算の美学に迫りたい。茶道のお点前と、その場の雰囲気を通して、日本独自の精神性を感じ取り、それを箏の音色で表現するために、以下の3つの思考スキルを重点的に活用する。

①「多面的に捉える」ことで茶道のお点前における一連の動きを多角的に分析させる。

具体的には、お点前の作法映像を単なる「茶を点てる物理的動作」として見るのではなく、一つ一つの動きから「作法の背景にある亭主のおもてなしの心」という視点から多面的に捉えさせる。

②「関連づける」ことで茶道体験で体感した、「その場の雰囲気」と「亭主のおもてなしの心」を箏の具体的な奏法による「音色」と結び付けさせる。

具体的には、茶道のお点前の一連の流れの中で、その場の雰囲気をより際立たせるために、どのタイミングで、箏のどのような奏法で、どのような音色を奏でるのか、「具体的な音色」をワークシートに根拠を持って構想を練らす。さらに、自分自身が放つ「一音の重み」やこれまでの演奏経験と結びつけさせることで、必然性を持った音色の選択と表現の関連づけを促す。

③「広げてみる」ことで、茶道という完結された世界観の中で奏でる箏の音色の価値を深く考え自己の表現を深めさせる。

具体的には、本時の核となる「3つの柱」(音色の選択、音色を奏でる奏法、音色を奏でるタイミング)を実践する過程において、継続的に音色を奏でるだけでなく、「音を鳴らさない静寂の時間(間)」や「奏でた音色が空間に放たれ、その音色が空間にもたらす役割」について、表現上の意味やイメージを広げさせる。

4.評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

音素材(箏の様々な奏法による音色や減衰音)の特徴について表したいイメージ(茶道の場の雰囲気)と関わらせて理解している。(知識) 創意工夫を生かした表現で音楽を作るために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。(技能)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連(音色・間)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現(茶道の場の雰囲気)としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。	「引き算の美学」における静寂(間)や箏の音色に関心をもち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5. 単元指導計画（全4時間）

時	ねらい・学習活動
1	【経験】 ねらい：歌舞伎 黒御簾音楽における鳴り物の役割について考察する。 学習活動：演目「鷺娘」のハイライトシーンから大太鼓が表現している情景と心情について考察する。
2	【経験】 ねらい：薄茶点前の流れの中で茶道の空間の雰囲気をより際立たせるために「ふさわしい音色」と「音色の奏で方」と「音色を奏でるタイミング」について考察する 学習活動：茶道体験で体感したことを箏の音色で表現し、箏の多彩な音色の表現方法について深める。
3 本時	【分析】→【再経験】 ねらい：同じタイミングで箏の音色を奏でている班の演奏を比較聴取し、箏の多彩な音色からイメージの広がりについて考える。 学習活動：3つの柱「音色の選択」「音色の奏で方」「音色を奏でるタイミング」に軸に置き、静寂の時間や一音を奏でる価値について考察する
4	【評価】 ねらい：相互鑑賞を行い、茶道の空間にふさわしい箏の音色や間の取り方について考えを深める 学習活動：①相互鑑賞と工夫の共有 ②レポート作成：探究テーマにおける自身の考えを述べる。

「経験-分析-再経験-評価」は J.デューイの教育哲学から提唱された単元構成の枠組みである(小島 2015:62-70)

6. 本時の展開

(1)本時の目標

［思考力・判断力・表現力等］

茶道の空間の雰囲気をより際立たせるために、3つの柱「音色の選択」「音色の奏で方」「音色を奏でるタイミング」に軸を置き、音の数や配置を工夫してまとまりのある創作表現を構成することができる。

［学びに向かう力、人間性等］

静けさを際立たせるための「間」や「音色」の響きを妥協なく吟味しながら、グループで協働して作品を構築することができる。

(2)本時の評価規準

［思考・判断・表現］

茶道の空間の雰囲気をより際立たせるために、3つの柱「音色の選択」「音色の奏で方」「音色を奏でるタイミング」と関連づけ、まとまりのある創作表現を構成している。

［主体的に学習に取り組む態度］

他者との調和の心をもち、他者の音や間の取り方を尊重しながら、よりふさわしい「音色」の響きや「間」を追求しようとしている。

(3) 本時の学習と思考スキルとの関連

本時の学習で育成する思考スキル	本単元における解釈	本時における解釈
多面的に捉える	茶道のお点前における一連の動きを多角的に分析させる。	お点前を単なる「動作」としてだけでなく、「作法の背景にある亭主のおもてなしの心」という多様な視点から捉え、表現の根拠とする。
関連づける	茶道体験で体感した「その場の雰囲気」と「亭主のおもてなしの心」を、箏の具体的な奏法による「音色」と結び付けさせる。	3つの柱「音色の選択」「音色の奏で方」「音色を奏でるタイミング」に軸を置き、必然性を持った音色の選択と表現の関連づけを促す。
広げてみる	一音の余韻が茶室の静けさを際立たせる意味を深く想像させ、自己の表現を深めさせる。	一音を鳴らした後の余韻が消えるまでの「静寂の時間」に、どのような心境や空気感の意味があるのかイメージを広げて構成に活かす。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	前時の振り返りと課題の確認。	3つの柱「音色の選択」「音色の奏で方」「音色を奏でるタイミング」を軸に置き必然性を持った音色の選択を意識させる。	
展開1－1 5分	【分析】 同じタイミングで箏の音色を奏でている班の比較聴取。	【発表者】 ・茶道の空間設定について ・3つの柱の設定について 述べる。 【鑑賞者】 発表班の演奏を聴いて感じたことを述べる。	(思考) 発言内容
展開2 25分	【再経験】 めあて：薄茶点前の流れの中で茶道の空間の雰囲気をより際立たせるために3つの柱を軸に置き、静寂の時間や一音の持つ重みや価値について考察する		

	班による創作活動。 ①映像に合わせ、奏法とタイミング を調整する。 ②3 つの柱 ・音色の選択 ・音色の奏で方 ・音色のタイミング　に基づく検討。 ③クラスにとって参考になる創作表現をしている班があればピックアップして発表する。	班内の役割が機能しているか巡回指導をしながら、ふさわしいに音色をより深く吟味するように促す。 ・班員全員が参加できているか？ ・誰がどのような音色を奏でるのか ・どのタイミングで誰がどのように音色を奏でるのか ・班員全員で息の合った音色を奏でることは出来ているか 【発表者】 ・茶道の空間設定について ・3つの柱の設定について 述べる。 【鑑賞者】 発表班の演奏を聴いて感じたことを述べる。	(思考) ワークシートの記入内容/発言内容 (主体) グループでの合意形成や追究の姿勢
まとめ 5分	振り返りシートの記入	各班、創作表現をするにあたり工夫した点や他の班の創作表現から参考になった点を記入するように促す。	(思考) ワークシートの記入内容

(5)準備物

・箏(各班1面)、箏爪、iPad(動画再生・録音用)

・ワークシート

・お茶お点前映像

7.参考文献

・文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』平成 29 年 7 月

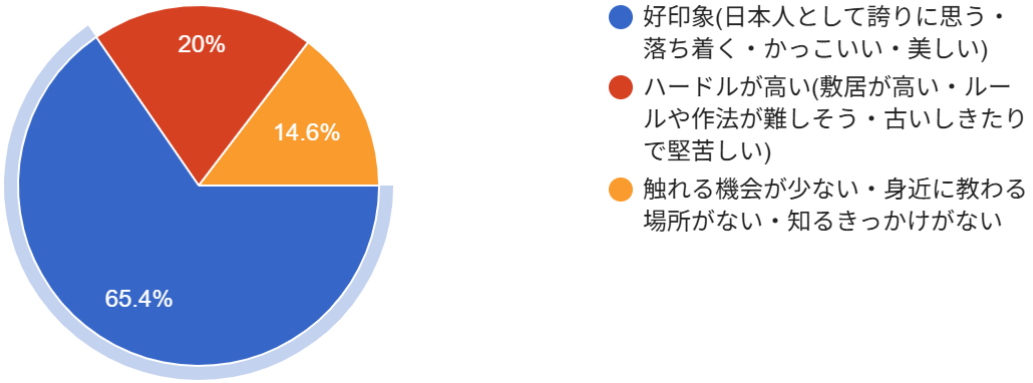
・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽』

令和 2 年 3 月

添付資料

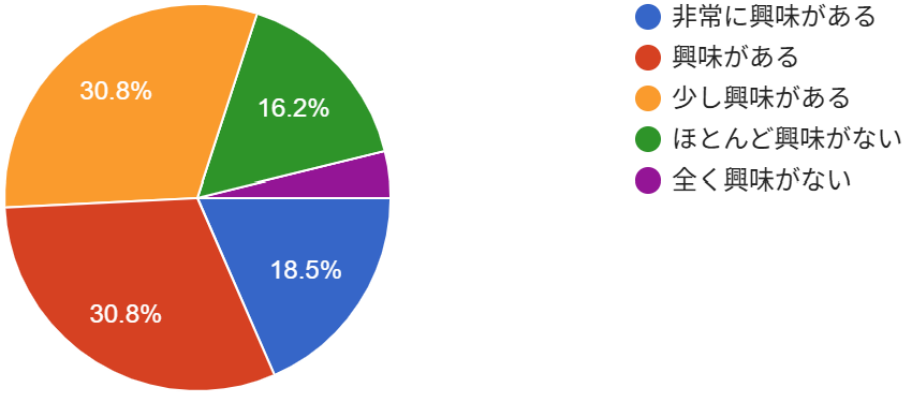
日本の伝統文化に関する意識調査

①あなたは、日本の伝統文化に対して、どのようなイメージを持っていますか



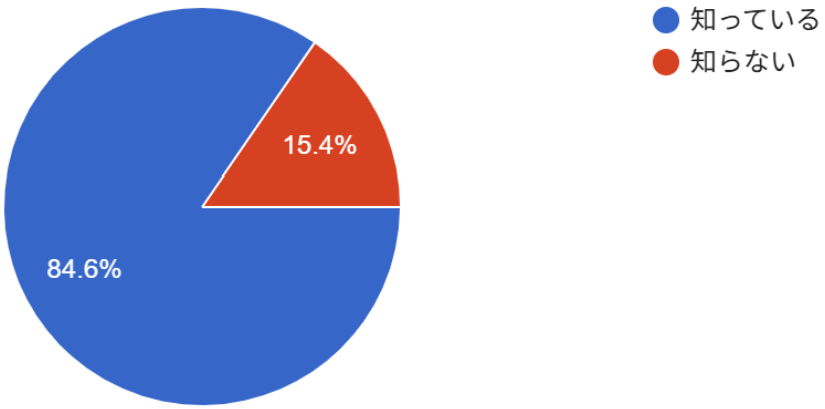
・好印象 65.4%　・ハードルが高い 20%　・触れる機会が少ない等 14.6%

②あなたは現在、日本の伝統文化に興味がありますか



・非常に興味がある 18.5%　・興味がある 30.8%　・少し興味がある 30.8%
・ほとんど興味がない 16.2%　・全く興味がない 3.7%

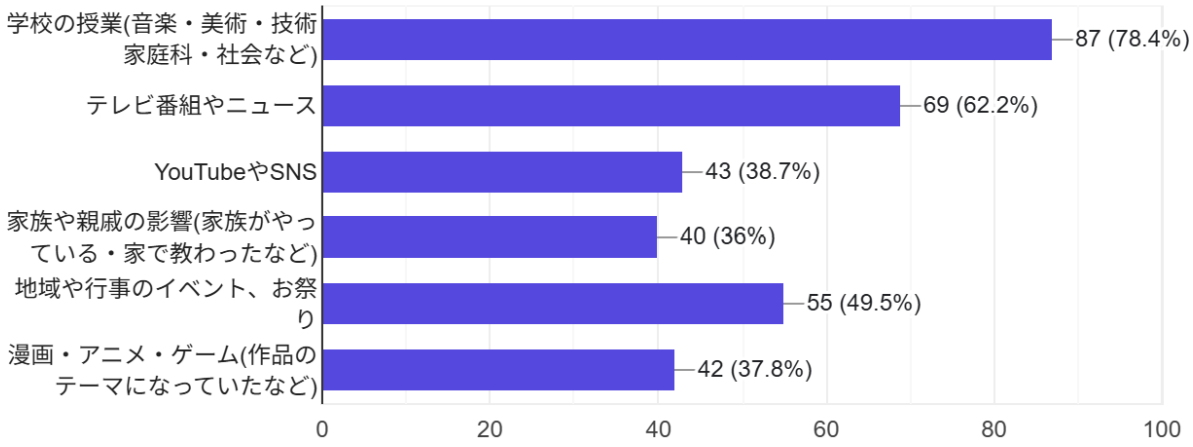
③あなたは「日本の伝統文化」について知っていますか



・知っている 84.6%　・知らない 15.4%

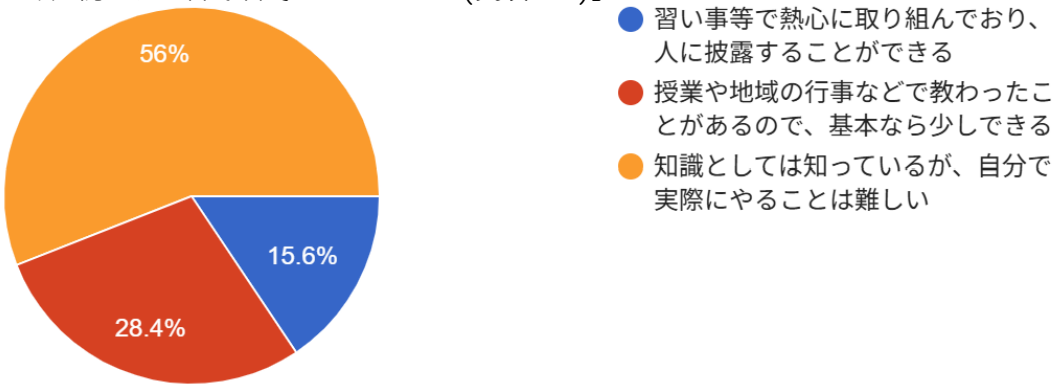
④伝統文化について「知っている」と答えた人へ

あなたが伝統文化に触れたり知ったりした「きっかけ」は何ですか(複数回答可能)



⑤伝統文化について「知っている」と答えた人へ

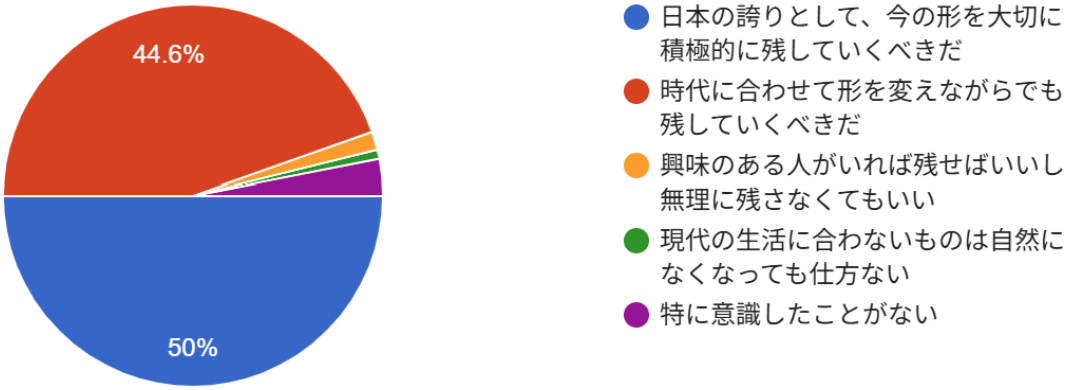
あなたは、伝統文化を自分自身で「やってみる(実演する)」ことはできますか？



・実演することが出来る 15.6%　・少しなら実演することが出来る 28.4%

・実演することは難しい 56%

⑥今後、日本の伝統文化をどのように残していくべきだと考えますか



・日本の誇りとして、今の形を大切に積極的に残していくべき 50%

・時代に合わせて形を変えながらでも残していくべき 44.6%

・無理に残さなくいい/自然になくなっても仕方ない/意識したことがない 5.4%